

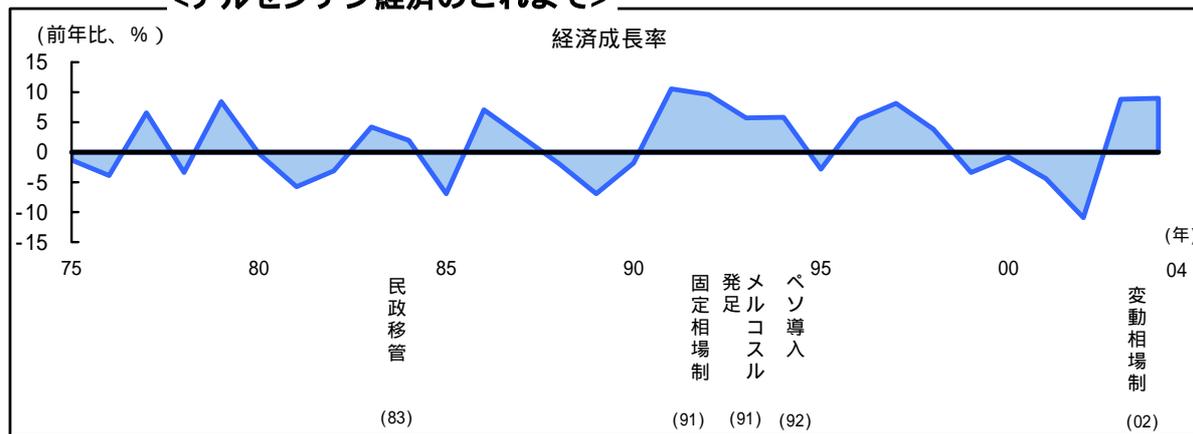
## 22 アルゼンチン

## Argentine Republic

<2004年>

人口	3,843 万人	財政会計年度	1月～12月
	(日本の約 1/3)	為替制度	変動相場制
一人当たり GDP	3,982 ドル	通貨	ペソ
産業構造(GDP 構成比)	1次産業 10.4 %		1米ドル=2.9ペソ
	2次産業 35.6 %	面積 273.7万km <sup>2</sup> (日本の約 7倍)	
	3次産業 54.0 %		

### <アルゼンチン経済のこれまで>



### アルゼンチンの主要経済指標

		93～02年	2003年	2004年	2005年			民間機関
					政府	ECLAC	I M F	
実質 GDP	前年比%	0.1	8.8	9.0	4.0	5.0	6.0	実質 GDP
鉱工業生産	同上	1.7	16.2	10.7	-	-	-	2005年
消費者物価	同上	4.2	13.4	6.7	-	-	7.7	平均 6.0
失業率	%	15.0	17.3	13.6	-	-	-	最大 6.8
経常収支	億米ドル	73.7	73.7	30.3	-	-	21.2	最小 4.5
(GDP比)	%	( 2.1)	( 5.7)	( 2.0)	-	-	( 1.2)	( 7社)
財政収支	億米ドル	46.0	4.5	94.2	-	-	-	
(GDP比, 年度)	%	( 1.6)	( 0.3)	( 6.2)	-	-	-	
政府債務残高	億米ドル	1,079	1,788	-	-	-	-	
(GDP比, 年度末)	%	( 47.8)	( 138.0)	-	-	-	-	

- (備考) 1. アルゼンチン経済省、I M F “International Financial Statistics”、データストリームによる。  
見通しの政府は経済省 (2004年 9月)、I M F は “World Economic Outlook” (2005年 4月)、E C L A C (国連ラテンアメリカ・カリブ委員会) は “Preliminary Overview of the Economies of Latin America and the Caribbean” (2004年12月) による。  
2. 実質 GDP の93～02年は94～02年の平均、鉱工業生産の93～02年は95～02年の平均。  
3. 失業率は2003年から推計方法が改定された。

### <2004～2005年の経済>

2004年の経済成長率は、前年比9.0%と2003年に続き高成長となった。これは農産品や工業製品の輸出が世界的な需要の高まりにより拡大したことや、為替レートや物価上昇率が2002年の変動相場移行後の混乱から立ち直り、安定的に推移したことを背景に消費や投資の拡大が続いたことなどによる。

2005年は、世界経済の成長率の緩やかな低下により輸出の鈍化が見込まれるものの、引き続き投資を中心に内需が堅調に推移するとして、5%程度の経済成長が見込まれている(中央政府見通し4.0%、ECLAC見通し5.0%、IMF見通し6.0%、民間機関7社平均見通し6.0%(2005年5月時点))。

なお、2001年にデフォルト宣言をしていた対外債務問題については、アルゼンチン政府は2005年1月14日から2月25日の期間にかけて、民間債務者が保有するデフォルト債の新発債への交換を実施した。